

現場の「今」を正確に伝える！！ 正確に把握する！！

ソニーのLocationPorter(ロケーションポーター)は、FOMAなど低ビットレートでのモバイル通信環境においても、ソニー独自の映像・音声圧縮技術により、高品質な映像伝送を実現。機動性に優れ、現場状況の映像によるリアルタイム、且つ的確な把握に効果を発揮します。



LocationPorter(ロケーションポーター)

<ロケーションポーターの優れた機能>

高画質

ソニー独自のコーデックエンジン採用により、鮮明な画像を提供。

安定伝送

独自開発のQoSにより、緊急時も安定した伝送。

機動力

モバイル回線を使用し、固定カメラでは撮影できない場所もカバー。

危機に的確に対応するためには、「今」現場で起きていることの正確な把握・共有が重要です。

ソニーでは音声だけでは伝えきれない事故・事件・災害の現場の状況を映像により映し出し、現場の正確な情報を真に必要としている方々に、確実にお届けできるよう映像力の充実に努めてまいりました。

「今」起きている危機に的確に対応するためには、現場の状況をいかに迅速に把握し、関係部署とその情報を正しく共有できるかが鍵であると考えます。

ロケーションポーターは、FOMA回線などのモバイル公衆回線を利用して、安定した高品質映像を簡単にリアルタイム伝送する中継システムで、事件・事故・災害対策における情報収集手段としてお役に立てる先進のソリューションです。

これまでは、現場の状況をリアルタイムに把握するためには、中継車やヘリ映伝などの高額な機材と多数の人員等が必要でしたが、このシステムをご利用頂くことにより、安価で、かつ必要最低限の人員で、現場の状況を対策本部へリアルタイムに伝送し、正確に現場状況を把握することが可能となります。さらに、音声コミュニケーション機能により対策本部から撮影者に対して「ズームして欲しい。対象物の裏側を映して欲しい。」などと直接指示ができるため、必要な場所の映像をリアルタイムで得られるようになります。

◆主な特長

【1】機動性～ビデオカメラ、FOMAカードをつなぐだけの簡易システム

被災・事故・事件現場にいる職員には、その場で取扱説明書などを確認する余裕はありません。従来のシステムは映像の送信、受信機器として、専用アプリケーションのインストールされたパソコンを使用していました。しかし、現場での機動性を高めるといふニーズに対応し、ロケーションポーターは、専用のハードウェアを開発し、小型化と簡単な操作を実現しました。

現場で電源を入れたらワンタッチで伝送できる直感的な操作性により、この装置専門の技術員を必要とせず、誰でも現場からの中継が簡単にできます。送信機本体もA5サイズ相当のボディに、内蔵バッテリー(別売)駆動で約1.5kgの小型・軽量を実現。別売のショルダーストラップを使えば、一人で現場に近寄り、決定的なアングルで撮影・送信できる機動力を発揮します。

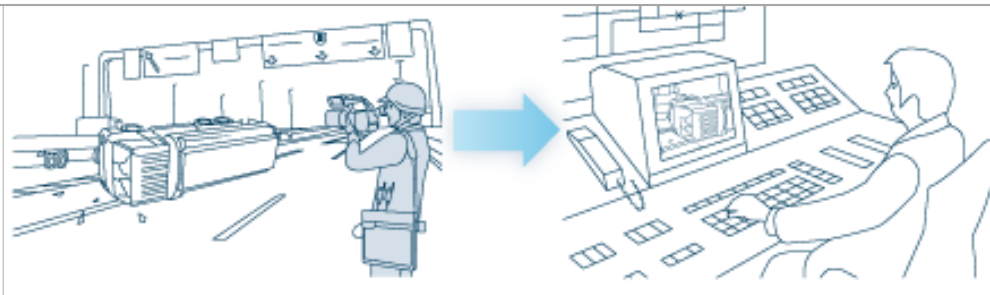
【2】高画質・高音質伝送を実現

映像圧縮コーデックにMPEG-2の2倍以上の圧縮効率を実現したH.264/AVCを採用。可変ブロックサイズによるフレーム内/フレーム間予測機能により、低ビットレート伝送においてもブロックノイズとモスキートノイズを大幅に低減しています。

またH.264/AVC Main Profileを採用することで、前後複数フレームおよび重み付けによって予測精度を向上しています。これにより、Baseline Profileのワンセグ放送よりも高画質な映像伝送を実現しています。音声にはソニーのパーソナルオーディオ製品にも搭載されている高圧縮率のATRAC3plusオーディオコーデックを採用。低ビットレート伝送でも自然でクリアな音質を実現しています。



突然の事故や災害など、被害状況や現場の様子を緊急中継



【3】モバイル回線上での高画質・安定伝送技術を採用

ARC、Real-time ARQ、FECで構成される品質制御技術「QoS」(Quality of Service)により、利用状況によって帯域が変動する公衆通信サービスにおいても、ネットワークのプレを吸収し、高品質で安定したリアルタイム伝送が可能です。

・ARC(Adaptive Rate Control:最適レート制御機能)

ソニー独自のアルゴリズムで、ネットワークの帯域状態により、最適な映像の伝送レートとフレームレートを自動的に判断し、安定したリアルタイム伝送を実現する仕組みです。

・Real-time ARQ(Real-time Automatic Repeat reQuest:パケット再送機能)

伝送時に損失したパケットをソニー独自のアルゴリズムで特定し、そのパケットのみを再送する仕組みです。(送信側でLAN回線使用時)

・FEC(Forward Error Correction:前方誤り訂正機能)

送信側であらかじめ映像・音声データにパリティデータを付加することにより、受信側で映像・音声の一部データが欠落した場合でも、残りのデータとパリティデータを使用して、欠落したデータを復元する仕組みです。(送信側でLAN回線使用時)

◆その他の特長

◆デュアルFOMA機能搭載

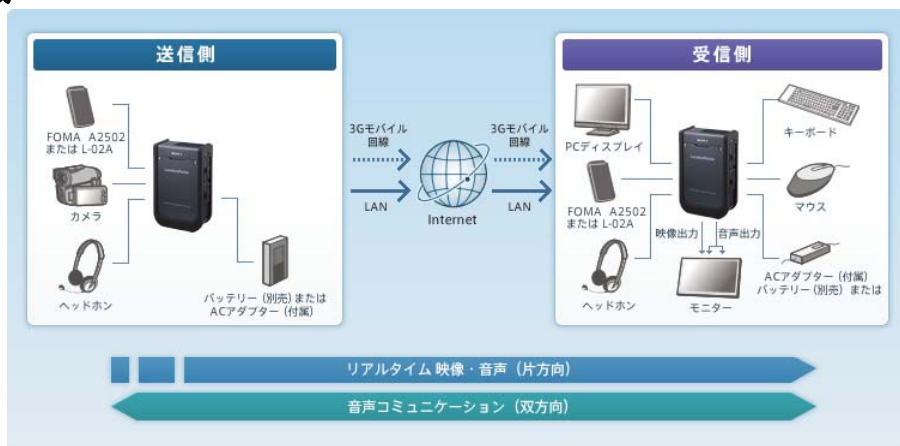
対応端末:株式会社NTTドコモ FOMA A2502 HIGH-SPEED,L-02A

「2X FOMA」モード時は、FOMA回線を最大2回線同時に使用し、映像ビットレートを最大2倍に向上し、映像の高画質伝送を実現します。音声は、二重化伝送されるので、たとえ1回線が不安定でも、もう1回線でバックアップし、信頼性の高い音声の伝送が可能です。

◆音声通話機能を搭載

コンテンツの音声とは別に、送信側と受信側の連絡用としてヘッドセット(別売)による音声通話が可能です。対策本部から撮影者に対して「ズームして欲しい。対象物の裏側を映して欲しい。」などと直接指示ができるため、必要な場所の映像をリアルタイムで得られるようになります。

◆システム構成



◆ご利用シーン

ロケーションポーターは、2009年6月から発売開始し、官公庁、自治体、放送局、医療、企業など幅広いお客様に採用されております。

・全国主要箇所でのテロ対策訓練や災害対策訓練の状況を撮影し、本部へ伝送。移動しながらの撮影が可能なので、本部にしながら現場の状況を確実に把握することができます。また、政府要人の警護、重要施設の警備を行う場合など、固定型の監視カメラではカバーしきれないエリアでも、小型で機動性の高いロケーションポーターが活躍します。

・突然発生する事故や火事の場合でも、緊急車両が現場に到着する前にいち早く駆けつけ、本部指令センターへ現場の映像と音声を配信。本部は現場の映像を見ながら、的確な指示・命令を出すことができるので、迅速な現場対応が可能です。

◆今後の展開

現在のロケーションポーターは、現場の送信機1台から、対策本部での受信機への1対1の運用となりますが、今後は、複数の現場から同時に対策本部で受信ができる「マルチ受信システム」(保安電子通信技術セミナー展示会に参考出展)により、効率的、かつ、柔軟なオペレーションを実現していきます。

また、FOMA回線だけではなく、衛星回線にも対応していくことで、地上だけではなく海上においてもこの高品質な映像伝送の領域を拡げていく予定です。

ソニーは、今後も、現場の正確な情報を真に必要なとしている方々に、確実にお届けできるよう映像力の充実に努めてまいります。

【お問い合わせ・デモンストレーションのご依頼】

ソニービジネスソリューション株式会社 公共ソリューション営業部

営業担当: 岩下・杉野 電話: 03-5792-3175

